

令和2年度学校自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 (1)高い志と自ら学ぶ力 (2)確かな学力と公共の精神 (3)自らを律する力と他を思いやる心 (4)率先して行う勇氣と協力して成し遂げる知恵 (5)健やかな体と感動する心
-------------------	--

今年度の重点目標	1 学力の向上と進路実現 (1)授業規律と学習習慣の確立 (2)力をつける授業、生徒が主体的に取組む授業の工夫 (3)キャリア教育の充実 2 自主自律と協調性の育成 (1)基本的学習習慣の確立 (2)生徒会活動、学校行事の充実による自主性の育成 (3)質の高い部活動の実践 3 学校の魅力化 (1)コースの発展・充実 (2)「地域探究の時間」の発展・充実 4 学校における安全確保の徹底 5 業務改善の取組の推進
----------	---

評価基準 A:十分達成 (90%) B:概ね達成 (70%程度) C:変化の兆し (50%程度) D:まだ不十分 (35%程度) E:目標・方策の見直し (20%以下)

評価項目	具体項目	目指す姿	年度当初	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価結果	改善方策
学力の向上と進路実現	授業規律と学習習慣の確立	○どの生徒も授業を大切に、主体的に授業に取り組んでいる。 <指標>教員アンケート「生徒が授業に集中して取り組んでいる」の評価AとBを合わせて70%以上、生徒の家庭学習時間1日平均1時間30分以上、生徒アンケート「授業に満足している」、「自分で勉強を進めようとしている」の評価AとBを合わせて70%以上。		○おおむね授業規律はよくなってきたが、授業に集中できていない生徒も見受けられる。また、始業時間に遅れる生徒や授業の用意が不十分な生徒もわずかにいる。 ○定期考査の前だけ家庭学習をするという生徒が一部に見受けられる。課題提出の取り組みは、進んできているが、授業の予習や復習を含めた家庭学習の取り組みが不十分な生徒が若干みられる。	○評価方法を周知徹底する。平常点も重視されることから、教師が授業開始時間を必ず守り、チャイムとともに授業が始まるよう生徒に指導するとともに、教材などの持ち物についても確認する。 ○予習・復習を含めた家庭学習の指示を具体的に示し、提出物についてもまめに確認する。また、学習についてこれない生徒・気になる生徒については課外や面談等を行い、関係職員と連携し対処する。 ○生徒が授業に集中できる環境づくりを行う。そのために、学年会・教科会・支援会議等で情報交換を行い生徒理解に努める。	○生徒アンケートでは、「授業に満足している」等の評価は、70%を超えているが、教職員が「生徒が授業に集中している」の評価は30%を切っており、授業に対する姿勢の評価に開きがある。 ○家庭学習時間は、考査前は90分近くになる学年もあるが、通常時は60分を切る状況である。 ○小テストや単語テストなどを行ったが、取組姿勢や課題の提出状況に問題がある生徒も一部見受けられた。 ○授業開始時刻の遵守や教室環境の整備に取り組んでいるが、授業に遅れてくる生徒も一部見受けられた。	C	○学習意欲の低い生徒には、授業を通して学習の意義を丁寧に伝え、学習に取り組む姿勢を育てる。 ○家庭で学習に取り組めるよう適切な課題の提示、小テストの取り組みを継続する。具体的な学習目標を設定し、達成感のある学習に取り組ませる。 ○授業開始・終了のメリハリをつけ、教職員が率先して時間遵守の取り組みを継続する。1分前に着席・準備する習慣をつける。
	キャリア教育の充実	○キャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。 ○アンケート「明確な進路目標を持っている」評価AとBを合わせて1年で70%、2年で80%、3年で90%以上。		○アンケート結果では「明確な進路目標を持っている」生徒の割合が75%前後で推移している。しかし、目標達成への進路がイメージできず、具体的な行動に移せない生徒や、目標を下げてしまう生徒の姿も見られる。 ○生徒が学びに向きあうまじりに時間がかかっている。	○1年次から生徒の視野を広げ、具体的な将来設計を描くことができるよう働きかけを行う。 ○それぞれの時期における指導テーマを明確に生徒に伝えた上で、進路面談を繰り返し、他分野との連携をとりながら進路指導を行う。 ○生徒が身につけた力について、SMT(※)で確認しながら指導する。 ※SMT:進路探究で身につけた力 S M T	○各学年とも担任を中心にそれぞれの時期に応じた進路指導を行い、SMT(※)を実施して自らの進路に対する意識を確認させることができた。 ○進路情報を十分に与えることが難しい状況の中、10月に、2年生を対象として進路相談会を企画し、おおむね好評であった。 ○生徒アンケートの「明確な進路目標を持っている」生徒の割合は1年66%、2年76%、3年95%。 ○1、2年の11月の模試については各教科で分析を行い、1年は時間をとって結果の振り返りを行うことができたが、3年では総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試の対応に追われ、模試の有効活用ができなかった。模試のあり方や活用の仕方について継続して検討して必要がある。	B	○模試分析を行い、生徒に結果の振り返りを行うことで現状と目標・課題を明確にし、確実な学び直しに繋げる。 ○1、2年次の進路学習を充実させ、「明確な進路目標を持っている」生徒の割合を増やす。
自主自律と協調性の育成	基本的学習習慣の確立	○より高い学習習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いて生活できている。 <指標>遅刻者数の減少。頭髪・服装指導対象者数の減少、問題行動発生件数の減少。		○昨年は、遅刻が増加し遅刻指導や服装指導を行う場面が多かった。今年度は基本的学習習慣の確立・遅刻の減少・授業規律・服装容容・公共マナーの徹底に向けて学校を挙げて取組もうとしている。	○5Sの徹底。(整理、整頓、清掃、清潔、躰) ○遅刻・服装・不要物など各指導票を活用する。 ○教室や公共の場所からの私物の撤去及び整理整頓を徹底する。 ○基礎・基本の徹底等、SHRなどでのタイムリーな指導をする。	○遅刻者数は1学期は昨年度と変わりはないが、2学期後半は増加した。遅刻届の提出も増えている。 ○生徒会の協力もあり、教室整備がやや改善傾向にあるが、クラスや場所によって差が大きく行き届いていない。 ○スマートフォンの使用についての校内規定を変更したが、校内で使用し指導される件数は2学期以降は昨年度より減少した。 ○問題行動の指導件数は、昨年度より32%減少した。	C	○遅刻生徒を小さい集団からポイントを絞って指導、説諭することで、時間遵守や計画性のある行動を学ばせる。5S等やルール、マナーを守ることの必要性を理解し、物事に対する考え方の改善を図る。その結果として個々の物事に対する考え方の改善が基本的学習習慣の確立につながる。
	生徒会活動、学校行事の充実による自主性の育成	○どの生徒も生徒会活動や学校行事に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。 ○どの生徒も学校行事を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けると、人間力の向上が見られる。 <指標>生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AとBを合わせて85%。また、生徒アンケート「本校の学校行事は充実している」の評価AとBを合わせて85%以上。		○縦の横のつながりが希薄で、執行部・育英祭実行委員・応援団・各委員会活動も含め、生徒会活動に主体的に参加する生徒もいるが、全体としての意識は薄い。○遅刻者多数に歯止めがかからない。 ○育英祭・球技大会では生徒会執行部・実行委員が全体像をイメージできておらず、連携がまだまだであり、協調性もほしい。	○執行部と委員会、部活動が連携し目標を見える化することで全校生徒への取組を促す。挨拶運動放課後の教室点検、部室一斉清掃等を行う。部活単位で遅刻者数を集計。 ○生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」の評価AとBを合わせて83.4% ○新聞部発行の新聞に生徒会コーナーを作ってもらい連絡や意識改革を促す ○実行委員会や執行部会の回数を増やすことで、全体を把握させ、全校生徒への指示を目的も含め明確にし、全校生徒が活動できるようにする。	○コロナ禍で学校行事短縮の中であっても生徒会執行部が中心となり主体的に活動し、学校祭等の各行事をクラスで協力し成功させた。 ○生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」の評価AとBを合わせて83.4% ○球技大会も部活動からの協力もあり成功した。	B	○生徒会活動、育英祭実行委員の活動の回数を増やし、その意見が自分たちのものになるように指導する。 ○全校生徒への呼びかけを工夫させ、実践させる。
	質の高い部活動の実践	○自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。 <指標>県大会優勝6部、全国大会出場8部、全国大会出場者数のべ150名		○多くの生徒が部活動に参加し、活発に活動している。	○現在88%(4月末)2年生を中心に未加入者への声かけをする。(9月末に調査し生徒総会で促す) ・部活動加入率全体92%(昨年度4月末)88%(今年度4月末) 県大会優勝6部(個人含む)、全国大会への出場は8部、延べ142名 ○年間及び月間計画に基づき練習方法の改善に努め、より効果的な部活動の運営を行う。	○部員数4月調査88%、10月調査91%途中参加が増えた。 ○コロナ禍で出来ない大会もあり、目標の県大会優勝6部(個人含む)→9部、全国大会への出場は8部→6部、延べ150名→53名だったが県大会優勝が増えており活動が活発といえる。	B	○各部の生徒が顧問の効果的なアドバイスを基に自主的に考えた活動計画を立てさせ活動に取り組む。
学校の魅力化	コースの発展・充実	○体育コースは、トップアスリートを目指して日々鍛錬する中で、意識レベルを高め、部活動はもとより、学校生活において規範となる生徒を育成している。 ○特進クラスは、上級学校への進学等、進路実現を果たしている。 <指標>学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的にこなす生徒が増えている。また、国公立大学10%以上、私立大学30%以上を志望させる。就職率100%の進路実現を達成させる。		○昨年度の国公立大学現役合格者は3名で昨年度より1名減であった。 ○普通コースでは、進路面談等きめ細かい指導が行われている。入試制度の変更に対応しながらも、安易な進路決定をしない指導がなされている。	○特進クラスの充実に取り組み、国公立大を希望する生徒を増やし、意識付けと実力養成を図る。また、他のクラスでも私立大学の全体的な難化を考慮し、きめ細かい指導の充実を図り、高い意識を持たせ魅力あるクラスにする。 ○新教育課程実施に向け、充実した教育課程の実現を図る。	○今年度も毎週特進クラス担当者会を開催し、情報共有を行うことができた。 ○特進クラスでも総合型選抜、学校推薦型選抜で進学を決定する生徒が多数である。面接や小論文が課されることがほとんどで、学問分野ごとに複数の担当教員を配置して指導を行った。 ○国公立大学現役合格は現在7名(うち6名が特進クラス)。 ○国公立大学志望8%、私立大学志望27%、就職率は100%。 ○新型コロナウイルスの影響で多くの大会が中止となったが、県総体代替大会や全国選抜大会などにおいて体育コース生徒を中心に活躍した。また、様々な実習は計画を変更し工夫した活動が行えた。講演会はほぼ実施に至らなかった。 ○体育コースクラスは終礼を実施し「教室の整理整頓」が良好となった。しかし遅刻者や服装指導が必要な生徒がおり、学校生活において規範となっている状態とは言えない。 ○体育・スポーツ系の上級学校進学者は15人(41%)と非常に高い結果となった。	B	○早い段階で少しでも高い目標を持たせ、そこに向かって学力をつけさせることが重要課題である。1、2年の間に外部講師やOBの話を聞かせる機会を設け、進路意識を高めさせることに努めたい。また、今まで以上に教科の協力を仰ぎ、学びの質ともチェックしつつ、模試などを有効活用しながら、学力の向上を目指したい。 <体育コース> ○年度当初の体育コース集会をはじめ、定期的な体育コース集会で「規範意識」「行儀」について指導する。 ○新型コロナウイルス対策に対応した取り組みを考えていく必要がある。例)WEB等での講演会。日帰りの実習。工夫し充実した部活動。 ○進路について部顧問と担任団が連携を取り、2年生の段階から取り組ませる必要がある。
	「地域探究の時間」の発展・充実	○2年生を中心に全校生徒が「地域探究の時間」に取り組み、地域に関する関心が高まっているとともに、コミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力を身につけている。 <指標>事前事後のアンケート調査において、地域に関する関心が高まっており、またコミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力が向上している。		○「地域探究の時間」は6年目を迎え、新入生についても入学時にすでに学習に対する意識が高まっている。 ○1年生は「地域探究入門」、2年生は「地域探究の時間」、3年生は個別の自主活動にて地域についての知識関心を高める学習プランができ、特に2年生の活動についてはこれから始まる本格的な活動に対し意欲的な姿が見られる。	○1年生の入門活動では次年度の本格的な活動を意識させ、主体的に活動に関わる指導を行う。 ○2年生の活動では外部講師との連携を密にとり、生徒の主体性を引き出せる活動を計画する。また、教員と講師とのそれぞれの役割を自覚し効果的な探究活動を展開する。 ○3年生の自主活動では、地域で行われるボランティア活動に積極的に参加できるように広報を充実させる。また、進路選択の場面でも地域貢献の視点を盛り込んだ指導を行う。	○コロナ禍で活動の制限がかかる中、必要な対策を取りながら例年通りの活動を行った。入門編は3年目を迎え、次年度の本格的な活動に備えた動機付けや自身の成長の必要性を感じることのできる計画的な活動となった。 ○地域の講師の方々と密に連携しそれぞれの探究グループごとに最大限の活動を展開した。 ○生徒への事前事後アンケート調査にて、コミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力等の成長が顕著にみられた。また、地域への関心や自己有用感、地域貢献に関わる進路意識の高まりが顕著にみられた。 ○高校生議会では短期間で取組となったが例年以上に斬新な提言発信ができ、議会関係者から高評価を頂いた。 ○サミット開催はリモート形式となった。質疑応答の時間が充実するなど生徒の振り返りシートからも例年以上に学びの多い取組となった。今後必要に迫られる教育手法であり、そのスタートを切ったことは大きい。 ○「北条ツアー」や「北条かるた事業」、「ばんどう漫画化事業」等、北条町と連携した活動を例年以上に多く行い、これまで以上の地域連携ははかれた。 ○3年生については、コロナ禍の影響で予定していた校外への活動が中止となり発展的な経験の場を与えることができなかった。一方、進路指導における自己推薦書や面接指導の場で、これまでの地域探究活動を振り返る指導が手厚く行われ、将来の人生設計に地域貢献の精神を与え、未来につながる指導がこれまで以上に強く行われた。	B	○コロナ禍による活動の制限が来年度も想定される。地域貢献の志を高める教育効果が維持できるよう、IT機器を使用した効果的な探究活動の実践に積極的に取り組む。また、地域行政、地域の方々と連携をこれまで以上に密に行い、地域とともにコロナ禍を乗り切る姿勢を強く示す。 ○コロナ禍の状況で地域探究活動を行うことはまさに「探究」であることを実感し、生徒・教職員が一体となって積極的に活動に取り組む。 ○3年生における発展的な探究の場の提供について、個々の進路希望をしっかりと把握し必要度の高い生徒について社会状況を見極め効果的な校外活動の場を模索する。
学校における安全確保	学校教育活動における安全確保の徹底	○生徒が安心して学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。 <指標>いじめ防止対策計画に沿ったいじめ防止アンケートを年3回実施。学校における事故等の減少。		○体育の授業や部活動で、安全への意識の向上と安全対策の徹底に取り組んでいる。学校生活全般においても事故防止に努め、安全対策の徹底を継続的に図る必要がある。 ○様々な個性を持った生徒がおり、一人一人の個性に応じた「学び」が保障される必要がある。	○教職員及び生徒(部活動各員)対象の救急救命講習を実施し、全員の意識を高める。 ○いじめ防止基本方針に沿った「学校生活に関する調査」を定期的に実施し、組織的な対応を図る。	○救急救命講習は、コロナ感染防止対策のため例年の日程では実施できなかったため、3月での実施を計画している。 ○「学校生活に関する調査(いじめ防止アンケート)」は、1学期・2学期に各1回実施し、更に「心と身体の健康調査」も1学期・2学期に各1回実施して、環境保健部と各学年で情報を共有し、その後の面接指導等に活用した。	B	○次年度も、避難訓練等の機会を捉えて、様々な災害、負傷等への対応の周知を図り、安全確保の徹底に努める。 ○救急救命講習については、次年度はコロナ感染防止対策を図りつつ、教職員・運動部部員の全員受講を目指し継続していく。 ○「学校生活に関する調査」は、次年度も各学期に1回を目処に実施し、生徒の実態把握に努めるとともに、各学年との連携を密にし、日常的な保健・相談業務を継続していく。
業務改善の取組の推進	○各種委員会・分掌における業務内容の見直し ○時間外業務の縮減	○部活動の適切な休養日の設定や業務の洗い出しにより、時間外業務の縮減を図られている。 ○4月5時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。 <指標>全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。月当たりの時間外業務が平成29年度比25%以上削減している(令和元年度達成)。		○各部活動の活動時間は減少したが、一部には大会前の遠征等により超過する部活動もあった。 ○時間外業務については、29年度比28%の削減となっている。 ○年間の時間外業務360時間を超えている教職員は3割程度。	○部活動の年間計画及び月間計画の見直しを各部が行い、活動の効率化を図る。 ○昨年度に削減提案のあった事業などを取り止めるなど、一層の業務改善に取り組む。 ○教職員のシステム入力を徹底し、時間外業務時間をシステムにより客観的に日々計測する	○部活動の適切な休養日の設定や業務の洗い出しにより、時間外業務の縮減を図った。 ○4月から1月までの記録では、月45時間を超えた者は、3回以上7人、2回3人、1回5人、計15人(28%)で、年360時間を超えている者は4人(7%)であった。	B	○教職員のシステム入力を徹底し、時間外業務時間をシステムにより客観的に日々計測し、時間外業務の縮減を図る。 ○業務の精選や部活動の休養日の設定により時間外業務の縮減を推進する。

※SMT:進路探究で身につけたい力
S M T